

地球という大きな部屋の インテリアデザイン

第6号

「環境…アートのアピール」

大きな部屋に、大きなアートを飾ります。
これらのアートのテーマは「環境」。
ここの住人は「環境」をいつも意識します。

最近「エコ」とか「環境」とかって言葉を
やたら耳にする。

テレビ番組・講演・雑誌の特集記事として、
多く取り上げられている。

見聞きしている人達はおおきくうなずいて
いる。「なるほど！」って。でも・・・

「ほんとにわかったの？」

正直言うと僕らには、どれも小難しい。

専門用語や数字がおおくて、わかったよう
なわからんような・・・

それに結論っていうのは、結局当たり前の
ことを確認したようなものばかり。

何だそれじゃあ、環境の事意識するよう
にすれば、みんな簡単に答にたどり着くやん！

忘れがちけどとても大事なものが「環境」。

これをみんなにいつも意識してもらうため
に、僕らならどうする？

僕らは**環境問題をアートでアピール**しよう。
難しい言葉や数字でなく、感覚で伝えたい。
大事なものは、心でわかるはずだから。

「環境問題」は広範囲、だから多くの仲間
の様々な表現をみせよう。

小さな作品では弱いな

環境をテーマに大きな造形作品を、野外に
ならべよう。

展示期間をもうけ、広く人々に環境問題に
ついてアピールするんだ。

さあ、準備開始。





高校生による、アートをととした環境への取り組み

「環境造形展」

場所 県立八日市南高校 前庭

展示期間 平成12年 10月21日(土)
から 31日(火)まで
(9:00から17:00まで)

9点の個人作品と共同制作作品は、放課後や休日を利用して制作が進められました

出品作品はそれぞれに、光・大地・緑・水・風・生物・人・現代社会、といった要素を含み、環境問題に関連します。

本校生徒や広く人々に、個々の作品と環境造形展全体から、地球環境について感じ、考えてもらえる機会になることを願いました。



「風」 澤地利彦 商業技術科 2年

目には見えないが、大切な空気の流れが風。時に静く、時に強く面に吹く風を、風力で動く造形作品により人々にみせる。



「生命」 佐藤陽介 緑地デザイン科 2年

2000年、絶滅生物「ヒト」の復讐が実現された・・・
繁栄を極めた「ヒト」が恐竜と同じ運命をたどらぬことを願う。



「鉄の塔」 藤立貴彦 農業技術科 2年

何本もの鉄筋が折れ曲がりながら空を目指す。それは鉄を使う人間の発展の様子であり、同時に不安定で危うい現代社会を表している。



「岩」 小澤智稀 農業技術科 2年

大岩が振り子のごとく古新聞で覆われる。それは懐疑社会を持つ人間という生物が、地球表面にほびこり難い厚く十字架を、大岩を地球、新聞紙を人間社会にたとえて表す。



「大地への点滅」 高田聖希 緑地デザイン科 2年

人間に痛めつけられた瀕死の地球。そんな地球に各種ビタミンを注入する。大きな生命として地球を見つめ、その命を助けようと訴える。 ページ031497キイワード



「光の十字」

西川裕子
食品流通科 2年

地球上の命を育む太陽光、人は昔からその恵みに感謝し、崇めてきた。

鏡面の十字は太陽の光をうけてきらめき、光の十字架となる。



「注意」 森野裕子 食品流通科 2年

- ・落石注意 「まさか起こるまい」と自然を脅かす人々への警告。
- ・危険物 危険物管理がずさんな現状を問う。
- ・大気汚染 生物を滅ぼす恐ろしい大気、防犯の責任を問える。



「土が生える」 本校立派代東生園2年名と県立八日市東瀬中学校高等部2年生20名による共同製作
大地に宿る植物、見えにくいが大切なその根と土の関係を、よきによきと数十本、四角状に土が生えた状態でみせる。 ペーパー・ホルダー・サイコロの箱



「水が流る」 本校立派代東生園2年名と
県立八日市東瀬中学校高等部2年生20名による共同製作



六角の柱を
まわりつたう
樹籬。そこを
流れる水。
命の水が、
蒸発し空にの
ぼり、雨に変
わり山に降
る。
水は集ま
り河となり、
大地を回り大
洋に流れ、そ
してまた・・・水の循環を表現した。

10日間の公開展示は、新聞やテレビ・ラジオのニュースとして報道もされ、多くの方に来場していただきました。

全校生徒や広く人々に、個々の作品と環境造形展全体から、地球環境について感じ、考えてもらえる機会になったと思います。もちろん、今回の企画に関わった僕たち自身も、環境への意識をより高めました。

また、自分たち高校生が社会に向けてアピールできたということは、大きな自信となりました。